

# 5年 道徳科学習指導案

令和6年2月3日(土) 2校時

5年1組 27名 授業者 久我 綾

5年2組 26名 授業者 横山 太加男

- 1 主題名 精一杯生きる 内容項目:D(17)生命の尊さ
- 2 教材名 「最後のコンサート —チェロ奏者・徳永兼一郎—」 光村図書
- 3 ねらい 病に侵されながらも演奏家としての自分の生き方を全うした徳永兼一郎さんの姿を通して、「精一杯生きる」とはどのようなことを考えさせ、限りある命を懸命に生きることの意義を感じ、生命を尊重しようとする心情を育てる。

## 4 展開

	学習活動(主な発問と予想される児童の反応)
導入	<p>1 「生きる」とはということだと思いか出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・息をしていること。・ご飯がおいしいこと。・一生懸命に生活すること。</li></ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて: 「精いっぱい生きる」とは、ということだろう。</p>
展開	<p>2 「最後のコンサート —チェロ奏者・徳永兼一郎—」を読んで話し合う。</p> <p>①東京でのコンサートに向けてチェロの練習を続けた兼一郎の気持ちについて。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まだまだチェロを弾いていた。</li><li>・自分の演奏でみんなに喜んでもらえたらうれしい。</li><li>・佐藤さんの作ってくれた楽器に命を吹き込みたい。</li></ul> <p>②チェロを弾けるような状態ではなかったのにもかかわらず、それでもホスピスでのコンサートで演奏するのを諦めなかった兼一郎の思いについて。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チェロを弾くのが大好きだから、力の限りチェロを弾きたい。</li><li>・自分の演奏をホスピスのみんなに聴いてほしい。</li></ul> <p>③「精いっぱい生きる」とは、どういう生き方なのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分ができていることに挑戦し続けること。</li><li>・何事にも諦めずに取り組むこと。</li><li>・自分が生きたという証拠を残すこと。</li></ul>
終末	<p>3 兼一郎の生き方を知り、「生きる」ということについて思ったこと、考えたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・何かに対して一生懸命取り組み続けること。</li><li>・「精いっぱい生きる」とは、命を大切に使うこと。</li></ul>

## 5 評価

- ・限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さなど、さまざまな側面から命を尊重することについて考えている。
- ・「限りある命を懸命に生きる」ということについて考え、どのように生きようとしているかを考えている。